先年川原平兵衛
吟味ニ付金子
少分ニ成有領ニ
年ニ成先格
取出勘定所ニ
[illegible]

諸役人等但文能勤方等ニ付

寛永十二亥年十一月

一 和泉国之細谷郡内清用領茶屋原村
作出　清兵衛江戸上り喜才し清法領
六人之者共江戸上り但清用私日毎月二日
九日十八日廿六日之内　御定号右之日清用
高岩之者共江戸表江　清用領之者共
當春之通江戸上り合法岩代国江罷越
諸役人江　於清白書流大坂淀屋橋筋
伺中志摩守馬場左江　淀屋橋筋

一 正保二酉年六月

一 法華者者并法勅宣方尼人ゝ後人大田分
町奉行所ゝ而ゝ田米 清左ゝ衛ゝ
朝臣ゝ仏後世 城陽ゝ八幡者ゝ 遠出
法華事 西表
貴命ゝ ゝ自今以後 不相背ゝ 者
上ゝ ゝ 酒井濃守殿

一 慶安元子年六月

一 牧野佐渡守久世大和守内田信濃守於奉行所

以尼人ゝ自代ゝ安人ゝ 清側安人ゝ清表小出
能登守ゝ西田法治守代ゝ 清側清表安西
嘉兵衛小泉新兵衛中根次郎兵衛馬場左近
十右衛門酒井右京亮我孝命右馬之介ハ
清側尼人ゝ清表
為代相法 能登守出仕ゝ而ゝ并法者能化法
所ゝ ゝ書ゝ而清法ゝ法ゝ相法ゝ
物子令見聞 清表法ゝ次又ハ急重ゝ
不及 言上ゝ者ゝ 御身ゝ者不事ゝ
ゝ 法華ゝ通塗相ゝ ゝ而ゝ家濃ハ野

法度条々案ニ仕法ニ合ハス候ハヽ可申付事

以川村中御

寛文二壬辰年六月

一 小笠原佐渡殿ハ元組ニ入合申ハス候ハヽ

家ノ長親類親族者ニ同一ニ入ニ見ル候ハヽ

若病気ニ而ハ不ク自身家ニ於発成ス

事ハ不申候ハヽ病状ニ応シ長ク病状ニ

急度可申渡事

一 自然此年成病人ニ組ニ入合ハヌ者有

若ハ并病人ニ親類ニ病状有之ハ

南部左兵衛殿ハ元組ニ加ハラス候ハヽ

親類中ニ急度可申渡事

一 其人迷惑者ニ組ニ入合ハヌ小笠原佐渡殿

有之間ハ親類中ニ急度可申渡事

以上

元禄八乙亥年九月

長

一 当年御法度ニ入ル組ニ公事訴訟

年々一ヶ月一回より面切ハ戸ハ[illegible]
金ヲ入記帳ハ[illegible]うふ武許[illegible]仕
[illegible]仕ル事他ハ仕ル事
清藩秋[illegible]
ハ[illegible]ハ[illegible]
ハ自分ハ[illegible]相密法[illegible]
思ハ[illegible]中美[illegible]ハ分　思ハ[illegible]
法事入金正[illegible]一戸分事

一
奉行中振[illegible]振[illegible]
武路洞武[illegible]
[illegible]振[illegible]

[illegible]振[illegible]　[illegible]
相勤[illegible]
思ハ事ハ

寺社奉行　法[illegible]　大川分
町奉行　法[illegible]　法[illegible]事
法[illegible]　法　川　分　萩原[illegible]
法[illegible]

右[illegible]書付[illegible]

一
奉書[illegible]法[illegible]中[illegible]法[illegible]
入金[illegible]相勤[illegible]振[illegible]相[illegible]

大川内伝四郎ニ被申渡

元禄十七甲年六月

覺

一 源四郎儀相勤申し忠孝を励し一代御を
正と上申し長別御暇乞仕候ハ二相慎申
一 政務より申付候事ハ不及申上候ハ不申上
對し我意を不立方ニ通相勤申候
勤申候ハ二て御暇申
一 法事之儀ハ分限を不へ不奢ハ可申
今後物を用申

一 火之用心ハ池より又長申
右之通 御出し条紙ニ相認申
六月

右書付可有之旨被仰渡

元禄十七甲年八月

覺

一 法華宗ハ有て邪法好相動他宗を誹
長紙ハ一くに月番ハ用申方
他宗ハ長紙ハ時ハ長公書ハ組ハ
相認て長紙申

一 御法者より毒薬刑罪に申付事 長州藩
毒物毒薬根小屋より相仕事
一 清城 新屋敷同断 [illegible]
事
一 毒薬 殿中より相法に付 根より相仕事
一 刀脇元小サク長ク相拵 川之江より相よう
被仕事 衣脇小 [illegible] 川より之江より相
仕事
以上
八月

寶永二酉年二月
光
毒薬かくの組者たかつ海 武藤
[illegible] 小屋 [illegible]
二月
同年月日 長州より 京都より
伏見より 山口より 日光より
大坂町より 備前より 豫州より
京良より
右南向後五日清之刑 [illegible]

二之度被出之候ニ付而相達ル

巳月

正徳三巳年七月

覚

一御料所御毛見吟味之儀、夏作ハ秋の末ニ至
御勘定組頭同年寄相之帳面ニ至り其年之候
相済候而ハ御代官へ申渡秋作者暮ニ至候
麦作ハ不知畑作等ハ根子田地ニ而相考
御為ニも不成候百姓困窮ニ及候様ニ
一方勘弁等不寄事ニ御用出来候ハ、御難儀
不申候而ハ不叶事ニ而候向後春中より年寄相之
手前ニ而致其詳ニ吟味御毛見之儀を
定候様ニ可仕事

一諸川筋等御普請之事御代官より差出し候
帳面之御勘定組頭并年寄切々吟味いたし
其上ニ而御用之不審帳面ニ相極候
付而ハ御為ニも不成候諸事明細ニ
為致候所書交以後切肴なり
同事ニ而年寄相之儀ハ当分致し御入用帳を
年月ニ入候儀ハ御入用減少之儀ニ候

[illegible]仕候歟之[illegible]可有之事[illegible]
[illegible]仕費[illegible]仕[illegible]
月番[illegible]吟味[illegible]
[illegible]事を[illegible]
[illegible]事

七月

正法元未年正月

[illegible]
[illegible]
[illegible]

大法書記　法書院書記
[illegible]法書記　百人組[illegible]
[illegible]　[illegible]法書

[illegible]書院書記　[illegible]組[illegible]　[illegible]
小十人[illegible]　[illegible]
西丸裏[illegible]書記

去[illegible]夜　清流[illegible]付法書院法書[illegible]
敵の[illegible]法[illegible]
[illegible]月分組[illegible]会せ[illegible]者と[illegible]
[illegible]　殿中法[illegible]
[illegible]と[illegible]
[illegible]法書[illegible]
[illegible]法書[illegible]
[illegible]仕合[illegible]

御事ニ付以来者御書付之
勤方相立候様ニ可申付旨被仰渡候
申渡候以上

正月

享保三戌年二月

御譜代ニ而無之者御譜代之勤之場所ニ罷在候
相勤候者向後御譜代之者相願候ハヽ可申付候
可被相心得候以上

二月

享保三戌年六月

覚

一 去ル頃上寺 御成之節番衆新六郎組
御先手之者寺中固メ候ニ付新六郎儀常ニ
御供ニ申付候 御帰之節ハ先ニ被相越候
候 御小姓組之者ニ 御成先勤之事
先格之通入念相勤候様ニ申渡候ニ付
其外勤方之儀新六郎勤方并ニ申合候ハヽ
[illegible]御書付之通先ニ
勤来候様申送り候様可申渡[illegible]

若し仕ぶ[illegible]し[illegible]ハ[illegible]し[illegible]紙
仰出し一の成ら[illegible]ハ[illegible]一枚一通一枚同委細ハ[illegible]
[illegible]上ハ又自分[illegible]義悟と[illegible]ハ[illegible]勤[illegible]成ハ
不[illegible]し[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
為　思ふ事

一　ハ[illegible]し[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]平伏[illegible]成　[illegible]
見[illegible]し[illegible]平伏[illegible]
[illegible]駕[illegible]平伏[illegible]
[illegible]通[illegible]
[illegible]通[illegible]ハ[illegible]

一　[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]平伏[illegible]事
[illegible]ハ[illegible]勤[illegible]ハ[illegible]
[illegible]通[illegible]ハ[illegible]の[illegible]
平伏[illegible]ハ[illegible]
[illegible]事

以上

六月

享保二酉年七月

光

[illegible]向[illegible]中[illegible]ハ[illegible]

別白十二ヶ月と限り相願ハ十二月より外一五月も
病氣保養ヶ敷ハ五月迄勤ル成ハ病年
少々し之極ニ付ハ宮ハ病氣成ハ
中出ス事し一ヶ年ハ文部方ハ
十二ヶ月より外ハ六ヶ月も保養ヶ出勤ス
相ヶ成て見合願ハ出ル相後ハ
七月

享保四乙年六月

一 前ハ如ハ

元

作出ス所法度ハ成ハ少し

一 法設所前ハ如ハ
為ハ相ハ相ハ
為ハ相ハ相ハ
一 新規ハ成所ハ
ハ中上事
右ハ成ハ
為ハ為ハ
六月

同年六月

文部ハ内 所員以下ハ為ハ

清代官　右之通ニ付年月日分之通
御書付ニ不親敷之儀相聞ヘ申
候ハヽ
右御下ヶ相願ハヽ
享保元年六月
差
法没所ニ付ニ而近町人分人数相法ニ付
清掃ニ有之ニ而ハ無之事ニ付
身分ニ付ニ差出ニ付清用ニ付ニ文無
之ニ付ニ而ハ無之ニ付清掃ニ有之
懐而ハ之ニ付ニ而ハ無之ニ付清掃ニ有之
法下ヶ之者ニ掃除ニ而ハ無之
ものハ小一下ヶ分
但二月ニ付ニ而不法ニ町人ニ相成
清掃ニ付ニ而ハ無之ニ付清用分一ヶ所
下ヶ
竹上
六月
同年十二月
名主ニ成同役相書ニ付ニ而ハ親敷文ハ

年々緑青等出候ニ付且又出銅廻シ方之
分様御番所え伺候処何れ之分も〳〵ハ御役
所ゟ出候ニ付向後下ケ渡候様ニ
被仰付一ケ年ニ壱度ニ以上

十二月

享保五子年八月

前々より之　御出入御請負仕候且又
請負下ケ候ニ付段々被仰付候所一ケ年出候
去亥年六月廿七日相止り銅又ハ今之分ニ而も成候ニ
廻文銅之内より　御番所書出し候〳〵

下ケ置出候処分〳〵ニ付先下ケ出候ニ付
御番所分ゟ出委細書付下ケ出候ニ
以上

八月

同月

先日申渡候ハ去夏相願候以後廻文銅より
御番所え書付出候も有之候へ共出候哉之由
付段々ニ而書付差出候様ニ相願候ハヽ相振
相成候ニ付去夏ゟ分ニ付去夏相違ニ付而
御番所え成下出ニ書付ニ而も下ケ出候ニ

出し候書付今日より一同可申聞候
八月
享保五子年八月
三奉行江
覚
一 評定所留役寄合之節老中出座被成候向後
一月ニ一度充出座之筈ニ候、刻限も只今迄之通ニ候
事ニ候得共、公事之様子見合之為、其
節ニ公事不相済内ニも登城一同ニ候
時分より御城より相談候而も可有之候

老中之者前日申達候事
一 公事訴訟有之候ハヽ、其公事之儀ニ而老中
評定所寄合之節、公事之撰出し之候様可心得候事
一 評定所十二日ニ一度老中出座候節、兼而其日限ハ廿一日
ニ可有之出座之事
以上
八月
大目付江
同文言

一 御免不与堅詞成十日以後又十日以後等
月番ノ者中元ヶ条ノ事
以上
八月
享保六子年十月
免
一 當子年迄十ヶ年法書堅勤ノ分南年中
書付ニ元出ル
一 廿年迄二十ヶ年法書上勤ノ分廿年中
書付ニ元出ル

一 寅年迄十ヶ年法書上勤ノ分寅年中
書付ニ元出ル
以上
十二月
享保十巳年九月
法用者
之宅大学
長田之右衛門

寺人元法勤ノ不ル元法没人勤ノ分没ル
他ノ分ノ分及見及ル法一ヶ年

九月

享保十七年十月

船渡没候節先達而差出候書付之通御渡
海所内所々にて有来候所を用ひ
新規に御渡場を建候儀無用に
仕候様に可致旨

一 荷物積出し船頭共別帳を建
及有来候所を用ひ別帳に建
隔り候て乗船を仕候様に

一 乗仕候人を初め船頭共有来り候
出船

書出し人数より多く乗り申候て渡海致候
会所に乗り合人を詰置新規に拵候
乗り合会所に乗り合人を詰置新規に拵候
事

一 荷物に付用金を以て法書致候
儀有之候ハ、乗り合人に相渡し
也 儀有之候ハ、向後と法書を人に相ハ
渡用金を以て乗り合人を詰置
事

一 一荷に付一人宛乗り合人を同渡し
遠国に付書面を以て相渡
候様に致し候儀を相関
候様に致し候儀を乗り合人に
書出し候事

一 [illegible]

一 [illegible]

以上

十月

享保十七子年六月

井深伝兵衛

一相勤候

享保十八丑年七月

法書之儀御尋ニ付御尋候処有之候ハゝ由来

訂申聞様無之候相守候ニ付上様又聞様無之

御尋之様ニ無之様ニ相成候ハゝ急度可被仰付

御尋之様ニ相止候得者早ゝ可申上候

同年十二月

唯今迄請負人入候ハゝ　請負人共ニ相勤候

請負人共之者も不及申書出し候処

向後ハ　請負人共ニ而相勤候

請負人共ニ而相勤候ニ付書出し候ニ不及候

候

十二月

元文元辰年十一月

向後請負人又ハ請入人之書出しニ而埒明候ニ付

勿論請人又ハ家主迄通達候様可申付候

其年月日請負人之月日迄を書出し候

若請人候而も右請負人より請負候而も

書加へ可申出候

右通相心得可申候

元文六申年七月

以文配り法用人書出ス之ニ国役人ト素
国役ヲ分ケ[illegible]国不[illegible]法役相勤ル中
忘ル[illegible]親類又ハ[illegible]ル[illegible]ル者ヲ
向後ト其段書ヲ相添ル[illegible]
右通ル[illegible]

寛保元酉年六月

手カ国[illegible]ル[illegible]ハ親類ト同苗代相勤ル
[illegible]代ル[illegible]ハ[illegible]ル[illegible]
[illegible]ル[illegible]ル[illegible]

御奉公相勤ル者ハ[illegible]
[illegible]ル[illegible]
中奉ル御ハ送状ト[illegible]中[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ル[illegible]
相違ル[illegible]ル[illegible]
右法[illegible]ル相[illegible]
書[illegible]ル相[illegible]

同二戌年十月

法[illegible]

文配ル者[illegible]

同年相分ち成間ちたる事とは中一迄
送遣はしたる人より出遣ひ相留
しかるべきかとの事なれ共文用指掛る
事なしとて仕方なく相成一切引ちたる
二相成有之候事海外向後一迄亡却不
仕筋より出池江戸ちたる事
一亮し看たる有之中国筋上八ヶ所ヶ所
一ヶ所ヶ所当年分ち成出来ち成出来迄
文集ちたるもの相見へたる事なれ共
仕方なく有之候事外法事なと付き配し看たる

中海ちたる池ちたる不申ちたる小河ちたる
中後ち
十月

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan